

1. 活動報告（事務局 記）

- 7月31日（日）会員15名と会員候補1名（横川 浩三さん）が参加し、清瀬峡の清掃、観察路の草刈り、田圃、ヨケジの除草、除去草の撤去、土嚢制作（水路の除去砂を用いて）の作業を実施しました。

- 8月7日（日）親子自然観察隊は水棲動物観察で、須賀河内川班とビオトープ班に分かれて、それぞれ観察しました。川班では、カワムツ、ヨシノボリ、ドンコ、エビ、トンボのヤゴなど、ビオトープ班では、モクスガニ、オヤニラミなどが観察されました。参加者は、親子自然観察隊（親10名、子12名）、二俣瀬子ども会（親2名、子3名）、山大学生3名、会員13名でした。

- 8月14日（日）会員12名が参加し、観察路の草刈り、焼却場周辺の草刈り、芋畑および周辺の除草、除去草の撤去、除去草の焼却、水車流入水路の清掃の作業を実施しました。作業前に、辻野会員が先日散布したバッタ駆除剤の説明がありました。また、電柵機器が不良のため、新しく購入することを決定しました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎行 事

- 8月28日（日）維持活動・草刈り（駐車場・須賀河内川一部）
- 9月4日（日）維持活動（草刈り）
- 9月17日（土）親子自然観察隊（昆虫観察）
- 9月25日（日）維持活動（草刈り）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「犬猿の仲」（原田満洲夫 記）

「犬猿の仲」とは、とにかく仲が悪いことで知られている。昨年10月ころから見受けられる離れ子サルが仲間恋しか？人恋ししか？ときどき近くに現れほんの悪さ（いたずら）をする。

大人の人間は何を恐れてか右往左往、自分では処理できないので他人に処分をお願いする。誠に滑稽と私は見る。人間に大きな害を与えるならばともかく、こどもの火遊びにしか見て取れない。我々の活動の一つ「自然環境学習の場」をコンセプトにしているには余りにも騒ぎすぎと思う。

我が家の忠犬「ハル」が生後15年人間の年でいえば85歳くらいであろうか？若い時は勇猛果敢でこの近くのイノシシを15頭も一匹で捕獲した“つわもの”である。年を取って人間（犬）が出来たと言おうか、1ヶ月前まで悪たれ子サルを追いかけて回していたが最近急にこの子サルと仲良しになり写真のように「背中でおんぶ」毛づくろいもしてもらっている仲の良さである。

「犬猿の仲」はただ仲が悪いのではなくお互いが精神（心）が出来てくると非常に仲が良いという意味にもなることを知って人間勉強をしてほしい。



5. 親子自然観察隊（水棲動物観察）

★須賀河内川班（関根リーダー 記）

須賀河内川の水棲動物観察は、子供15人とほぼ同数の大人で実施しました。気温も高く、川歩き日和です。東屋の東の石段から川に降ります。1週間雨がなく、流れも少なめ。川底に細かい堆積物がつもり、歩くとすぐ濁ってしまいます。今年もみんな、いきもの採取に熱心で、ゆっくり進んでいきます。でも小さいカワムツとヨシノボリが少し捕れただけ。最初の落差下の淵で大きな魚影が見えましたが、ここでは投網を使わず前進です。堰の上のトロは、例年ならヌマエビ、スジエビがよく捕れますが、今年はヌマエビも少なめで、スジエビはほとんど捕れません。いろいろなヤゴは捕れました。父滝の淵では投網を2投しましたが何も捕れず。最初の落差下で投げておくべきだったと後悔です。子供たちは例年のように淵で泳いで大はしゃぎですが、滝登りには苦労する子も多かった。ちょっと年齢層低かったかな？続く母滝を登り、明るいトロではようやく小さなドンコが捕れました。溪流にさしかかる付近では大きなカワニナから小さなカワニナまで揃っていて、今後はカワニナを餌にするゲンジボタルがこのあたりで増えるのかもしれませんが。溪流部ではおなじみカワムツ・ヨシノボリの他、例年になくスジエビとカワニナが多かったように思います。最後まで採取を楽しんで、みんな無事にゴールしました。記念写真を撮ってビオトープに帰ると、ビオトープ横で大きなモクズガニや小さなオヤニラミも捕れていました。全体には、カワムツは相変わらずですが大物が少なかったかな。近年比較的好くとれていたアカザも見なかったし、カマツカ、ムギツク、イトモロコ、シマドジョウなど以前は普通にいたものも捕まりません。かわりに各種のヤゴやヘビトンボ、タイコウチなどの昆虫が目立ちました。魚類については一度きちんと調査が必要ですね。

★ビオトープ班（菅 隊長 記）

朝からお天気は良く、暑さが厳しくなりそうですが、今日は子供たちにとっては待ちに待った「川の探検」です、気温の高いほうが楽しめますが、付き添いの大人たちには少々過酷です。今年の行事には「二俣瀬子供会」メンバーの1家族が加わり、一緒に沢登りを楽しみました。

開会式を行い、魚類の説明、注意事項の説明があり、お手伝いで参加していただいた山口大学の学生さん3名を紹介しました。そのあとライフジャケットとヘルメットを着用していただき、網とかごをもって親子自然観察隊と子供会の親子30名ほどが出発しました。

1家族が居残りしましたので、管隊長と女性スタッフも居残り、魚のワナである「採りカゴ」を4か所仕掛けました。“オヤニラミ”が1頭捕獲されましたし”モクズガニ“を始め漁獲量も10頭ほどまづまづ獲れ、面目を果たしました。

親子自然観察隊のメンバーが帰ってきましたので、「魚合わせ」ではヨシノボリ、ドンコ（大きい）、カワムツ、オヤニラミ、モクズガニ、スジエビなどのほかコシボソヤンマ・ヤゴ、コオニヤンマ・ヤゴ、カワトンボ・ヤゴ・モノサシトンボ・ヤゴ、オオヤマトンボ、コヤマトンボ・ヤゴ、ヘビトンボ幼虫、マツモムシ、アメンボ、コオイムシ、タガメなどと昨年より種類が増えていました。ただ、魚種が少ないのが気になり、会長からは「須賀河内川の魚はあまりとってほしくないのだが！」という意見もいただきましたが、須賀河内川だけでなく厚東川流域全体の問題かもしれません。

子供たちもみんな楽しく川遊びをされたようで、けがもなく元気に帰ってこられ安心でした。



隊員は東屋の前に集合しました



ライフジャケットなど着用し集合



川の探検のスタートです



「魚合わせ」が始まりました



隊員たちに捕った魚類や生物を説明する関根リーダー

親子自然観察隊の感想

★溝邊睦

川でたくさんお魚を見つけることができたし、川を歩くのはとても気持ちよくてもっと川をたくさん歩きたかったです！来年も楽しみです！

★溝邊さん（母）

このビオトープの沢登りをきっかけに娘は魚や虫をさわられるようになり、皆さんにサポートしていただきながら成長している姿を見れて嬉しいです。来年も楽しみにしています。

★藤原さん（母）

自分達だけではぜったい進むには不安な場所だから、仲間や詳しい人たちがいて、不安無く、めっちゃ安心して楽しめました！ いろんな魚や生き物の詳しい名前を知れて嬉しかった。大人も子供も楽しめるアドベンチャーありな、生き物の勉強ありな、貴重な体験でした！！ 水の中の生き物だけでなく、カブトムシやトンボ、あとカエルやカニもいて楽しかったです。ありがとうございました。

★篠丸さん（母）

沢登りは初めての体験で、どんな事をするのか想像がつかずドキドキしていたようです。しかし、いざ川に入ると恐れもなく自らズンズン進み、生物を探す事に夢中になっていました。本や映像で見た生物より、自分達で捕まえた生の生物に目をキラキラさせていました。来年は絶滅危惧種を捕獲する！とはりきっています。皆さんに準備から色々とサポートをいただきありがとうございました。

★竹内さん（父）

色んな水中生物を発見できて楽しかったです。

★竹内結咲

珍しい魚を取れたから嬉しいかったです。

★湯浅さん（母）

沢登りは初めての経験でした。子どもたちは「深いところが楽しかったー！」「魚とか自分だとれて楽しかったー！」とすごく嬉しそうでした。大人の私もハラハラドキドキ、楽しい時間を過ごせました！ ありがとうございます！

★中島さん（母）

沢登りははじめての体験でした。予想していたより水かさも多く、距離も長くて本格的で驚きました。子供も一生懸命頑魚を探し、見つけて喜んでいましたし、最後に先生が魚の種類を確認する際にはとても熱心に見ていました。貴重な経験をすることができ感謝しております。ありがとうございました。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」（管 哲郎 記）

(78) ウマノオバチ *Euurobracon yokahamae* ヒメバチ科コマユバチ亜科

このハチはほかの昆虫の卵や幼虫、サナギの中に寄生する「寄生バチ」の仲間です。寄生バチは大変種類が多く、大きさも2~3センチ台からミリの単位までとあり、種名や名前前のわかってないハチもたくさんあります。

ウマノオバチは主に”シロスジカミキリ“の幼虫に寄生しますので、5月~6月ごろ、クリやクヌギ、樫ノ木などで見られます。体長は15~24mmですが、メスの産卵管は長く、1.5cm前後もあります。発見された当初は大変珍しく、絶滅危惧種に指定されましたが、数年前より仲間が県内をくまなく調査したところ、ほぼ県内全域で確認され、絶滅危惧種を解除した経緯もあります。発生時期が短く発生場所も限定されますので、なかなか見つからなかったのです。同じ寄生バチでも産卵管がこのように長い種類は少ないので、5月の連休には栗林などを訪問し、探してはいかがでしょうか。しかし、よく手入れされた栗林にはいませんし（農薬散布で昆虫は少ない）、農家の方にお断りする必要があるようですので、くれぐれもご注意をお願いします。



ウマノオバチ♀と産卵管 ①
栗の木・シロスジカミキリ・ウマノオバチ♀



ウマノオバチの産卵



ウマノオバチ♀の様子
↑甲虫の脱出口を探す 産卵管の手入れ→

7. 会よりの連絡事項

- 1) 今回はありません。

8. 編集後記 (若林 正治 記)

今年の全国高校野球選手権は観客を入れての開催、本日のテレビ中継、甲子園は満員で選手の元気良いプレーが嬉しい。お盆休みに息子達が帰省し賑やかでこれまたお酒が美味しい。まだまだ暑い日が続くがビオトープ活動日は草刈頑張ります。